

平成 14 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

1 特定研究

「化学物質の地域リスク評価手法に関する研究」

[総合評価とコメント]

計画の中間段階でも、積極的に学会発表等を目指して欲しい。(他の課題も同じ) 予備的検討を十分やっておく必要があるのではないか。

リスクを求めること、また、これを市民に情報として提供するということと研究の精度とに若干ギャップを感じる。

目的を明確にして取り組むのがよい。目標がやや分散しているように思われる。適用すべき測定の方法論もよく考えること。

非常に重要な課題と考えます。計画はよくできていると思いますが、幾つか気になる点を挙げると以下のとおりです。

- ・ 河川の生態系とDEP由来リスクというフィールドが異なるものを扱っているので、両者がどう関わるのか、本来別にやるべきものを同じリスクで一緒にしたという感じを受けました。
- ・ その点からリスクを評価するための全体像を描き、そのなかで河川生態系とDEPを位置付けるなど、全体フレームワーク(センターにおけるリスクへの取組)を明確にしておいた方がよいかと思えます。
- ・ 任期付き研究員が研究に従事する計画で、期待が大きい反面、すぐに研究面での戦力として期待できるか不安な点があります。ただ、これもやってみないとわからない点もありますし、今後各県で任期付き研究員の採用が予想されるので、良い事例になるのではないかと思います。

県民のニーズに応える良いテーマである。

環境省や他の自治体の研究などとも情報交換して進めるべき。

ただし、モデルの検証をしようと思うと、かなりデータ数が必要だと思うが・・・。

研究の継続が必要と考える。

(数値的評価)

評価者 6 名

< 評価の内容 >	< 評価項目 >	< ランク >				
課題設定の妥当性	背景と必要性	1 (6 人)	2 (0 人)	3(0 人)	4(0 人)	5 (0 人)
	優先性	1 (3 人)	2 (3 人)	3(0 人)	4(0 人)	5 (0 人)
計画の立案と実施 法	研究内容	1 (0 人)	2 (5 人)	3(1 人)	4(0 人)	5 (0 人)
	計画の妥当性	1 (0 人)	2 (6 人)	3(0 人)	4(0 人)	5 (0 人)

凡例 1:よい 2:概ねよい 3: 問題点あり 4: 全面的見直し必要 5: わからない